

●地区別会議で話し合われたこと

	地域でできそうなこと
中央地区	<p>○外出の機会を作ってみることはできるのか？</p> <p>100 歳体操やサロンを地域で行っているので参加してみる。</p> <p>ボランティアがあれば利用をして外出支援をうけてみる。</p> <p>なにわご近所さんで 1 時間 500 円での有償ボランティアの利用が出来ると思われる。</p> <p>地域資源として何があるのか？</p> <p>社協のボランティアとしては、登録団体を作り、施設などで歌を歌ったり、傾聴したりするが、個人個人の対応はむづかしい。</p> <p>○三男の支援は大切だと思うが、どういうふうに声掛けをしたらいいか？</p> <p>たまに行く主治医が大切になると思う。</p> <p>発達障害の診断をうけたら、障害年金をもらえることがあるかもしれない。</p> <p>病態を心配することも大切。</p> <p>CM のスキルが大切ではないか？</p> <p>○本当にお金がないなら、その場作りをしていく必要がある。</p> <p>ボランティアだけでなく、第三者が関われるようにする。</p> <p>保健所のアウトリーチ事業の利用をする。</p> <p>サロンなどの地域活動への声かけをする。</p>

●地区別会議で話し合われたこと

小田地区

【小田地区の資源】

[おおくま病院]

地域包括ケア病棟をレスパイト目的での入院に活用できる。
入院時は MSW が金銭的課題も含めて総合的支援を行う。
もちろん、退院調整相談員として機能する。

[やまびこ]

500 円/1 回で、家具の移動や掃除を行ってくれる（小田・園田地区対象）。

[潮江のご近所さん]

500 円/1H で、色々なお手伝いを行ってくれる。

[シルバー人材センター]

色々なお手伝いを行ってくれる。料金は不明。

- ・国通知により、今後すぐに訪問介護事業所による社会資源（有償）整備が進んでいくものと思われる。
- ・息子の支援の視点が重要。包括に相談したらいいの？
⇒包括 C の養護者支援として相談を受け、保健、しごと・くらしサポートセンター等の機関に繋ぐ。

●地区別会議で話し合われたこと

大庄地区

- ・ 本人と三男の薬をあわせて管理したい。できれば同じ病院へ通院してほしい。
- ・ 近隣住民から話を聞く（新たなキーパーソンが出てくる可能性もあるため）。
- ・ 65 歳以上であれば見守りが行えるので、地域に見守りを依頼することもできる。
- ・ 民生委員に家族の若い頃のことを聞くなどして問題の背景等をアセスメントしていく。
- ・ 速やかに主治医を決めて脳梗塞の再発予防に努める。
- ・ 無料定額診療（医療生協系）の利用も検討する。
- ・ 世帯分離、成年後見制度等の利用を検討する。
- ・ 三男の支援も視野に入れ、障害者手帳の申請等も活用していく。
- ・ 多職種の連携と制度の活用のため、相談機関等も活用する。
- ・ 歯科受診してもらう（往診は高いのでなるべく受診してもらう）。
- ・ 親子の共依存に注意する。
- ・ 経済的な支援が必要なため、障害者の控除が受けられるよう支援する。
- ・ 食事の準備をどうしているのか？三男の食事の支援等も必要ではないかと思われる。多職種が連携していく。
- ・ 主治医を定める。
- ・ 本人は身障手帳 2 級程度になるのではないか。
- ・ 三男の精神障害の認定については、月 20 万円を稼ぐ能力があるため、認定が難しいかもしれない。
- ・ 未払いの医療費等があるかもしれない。
- ・ 破産の申請等も必要があれば検討する。
- ・ 退院時のカンファレンスの時点で、訪看が必要なケースであったと考えられる。
- ・ 三男はアルバイト等で余裕のない状態であると思われる。
- ・ 難しいと思うが、介護休暇等も利用できればよい。
- ・ アセスメントを行い、本人のできること、三男が手伝えることを把握する。
- ・ 三男に対しては DR. から話をした方がよいと思われる。
- ・ 地域からの情報を得ていく。
- ・ 三男へのアプローチも必要なケースであると思われる。
- ・ 大庄地区の民生委員等にも情報提供などの協力をいただくことが必要。

●地区別会議で話し合われたこと

立
花
地
区

【できそうな取り組み】

- ・地域住民（この家族の事を昔から知る近隣住民等）と連携し、アプローチの手段を多く持つ。
- ・何とか長男・次男とつながる手立てを検討する。
- ・介護保険に代わる社会資源を提案（お金がかからない、必要な事だけ利用頂ける）。
⇒ちょこボラ（社協立花支部コーディネート）による見守りや家事支援の活用。
⇒地域のふれあいサロンの協力。ふれあいサロンへの参加だけでなく、サロン参加者に支援者としての協力も望めるのではないかな？
- ・個別ケースを参考に、その地域で活用できそうな社会資源や制度を関係者で共有し、学びを深める。
- ・ネグレクトにあたるケースの相談先は？包括？警察？行政？
- ・50に80の負担を押し付けている。長男と次男の関わる場所を作る必要がある。
- ・財産のさし押さえをしたほうがいいのでは？後でもめることがあるので、場を作る事も大事。
- ・聞いてもらえる人、話ができる人が誰なのか？母の判断能力があるのかわからない。
- ・母親に後見人がつけばいいが、本人がどうしたいかわからない。ケースカンファレンスや地域ケア会議の開催。
- ・民生委員から近所の方へ何か言うことは難しいが、この家族や、息子さんが小さい時から見ているので、状況もわかる。
- ・似たケースはあり、近所の見守りもあるし近所には声をかける人もいる。
- ・近所や包括、ケアマネからの相談があり、見守りを兼ねた「立花ちょこっとボランティア」で月1回掃除、話し相手で入ることも可能。
- ・現在登録ボランティアは60名程度いるので社協に相談していただき、マッチングをさせてもらう。
連協会長⇒民生⇒ゴミ出しボランティアにつながったこともある。町会、福祉協会に入っていなくても可能。立花社協でチラシを配布している。身体に関わることはできない。ゴミ出しや、掃除などの生活援助のみ。
- ・サロンを自宅でしている。サロンに来る人達でのつながりが増え、近所のボランティアに繋がった事もある。
もっと尼崎市内でもサロンが広がればいいのではないかな？サロンに来ると話し相手も増えるし、助け合いがお互いで増える。
ただサロンによって内容に偏りはあると思う。

●地区別会議で話し合われたこと

武庫地区	<ul style="list-style-type: none"> ・このようなケースの場合、ボランティアは入ってもらえるか？ ⇒介護 4 の方、ボランティアに入るにはリスクが高い。専門職が担う部分ではないか。 ・3000 円の設定は、介入されたくないからか、お金がないからか？ ・息子へのアセスメントを深めないと入れない。ネグレクトの状況。 ・地域との関りの状況はどうだったか確認必要。そこから家庭の状況がわかるかもしれない。 ・三男へ、「ネグレクトにあたりますよ」と言うタイミングを見計らうべき。 ・環境整備が必要。手すり代わりにたんすの移動や、危険な場所に布団を置くなどの工夫ができる。 ・息子は退院してから在宅で介護する大変さを身をもって感じたのではないか。 ・本人が食事や水分摂取が出来ているかなど、身体状況の把握や医療へのつながりが必要である中、武庫地区においては初回往診が相談できる医師など、協力的な機関が多い。
園田地区	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の民生委員の担当については、名簿を包括支援担当・地域包括支援センターが掌握している。 ・地域を区分しても、そのエリア内の地区ごとで特徴が違っていると感じられる。 また、個々人で個性も違うので、それぞれの個人につなげるということも大事ではないか。 ・リストに上がらないような対象者に対して、気にかかる事例に対して、民生委員は個別にリストアップして情報収集している。 ・本人の前の担当ケアマネに当時のことを聞く。 ・鉄工所を経営していた地域の近隣住民に当時の話を伺う。 ・三男、本人と合わせて、住宅ローンを除いても 14 万円残るので、3000 円のみ介護サービスに充てられるということに違和感がある。 三男の財産関係（借財）を調べる必要があるのでは？ ・家の購入の際、保証人が必要であると思われるので、その保証人を探し、過去の経緯を探る。 ・食事はどのように摂っているのか？息子がスーパー等で買ってきているようだが、詳細不明。 ・栄養バランス、水分補給が気にかかる。 ・世帯分離すればよいのでは。